

WAY プロジェクト（校内道德教育推進委員会）レポート・11

2019・12/5（木）

今回は本校卒業生の中西秀輝さん、島田桃花さん、葛小中の松田先生、運営協議会会長の仲川さんにご参加いただき、道德科の内容項目「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」について議論が繰り広げられました。

C16 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に畏敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること

そもそも「郷土」とは、「自分の生まれ育った土地ないし地理的環境のこと。また、文化的な面を含んでおり、自らがその土地で育てられてきたことに伴う精神的なつながりがある場所を示している。」とある。では、自分たちは「郷土」を愛して発展に努めようとしているか議論になった。「生まれ育った土地であっても今からその土地に戻ることは考えられない」といった意見があった一方で「いつかは故郷に戻って生活したい」という意見もあった。では、なぜそのように意見が分かれるのかを議論した。その中で、自らが生まれた土地であっても他の人とのつながりやその地域社会の一員であると感じられないと、郷土を愛するまでには至らないこともあるのではないかということが確認できた。「郷土」という言葉で思い浮かべるのは小さい



頃に育った土地ではあるが、その中で培ってきたつながりや文化が重要であると感じた。そのためには、地域の人や文化に触れ、郷土について知り地域社会の一員であると感じられるような機会をつくる必要があると感じた。道徳だけでなく、学校としてそのような機会を設定し、「自尊感情」だけでなく、自分の生まれた土地を大事に思える「地尊感情」の両方をはぐくむ活動が大切なのではないだろうか。

(文責：新子)